

2021年5月3日(月) 晴天!

一昨日も昨日も不安定なお天気だった。でも今朝はすっきりとよく晴れている。予報では明日の夜から週末にかけてはまた崩れるとか。家の用事がなければ、自転車で少し遠出したものを…。とにかく人の多いところはさけてすごそうGW。

ー 代替のきかない人ー

昨日の雨のおかげもあり、空も空気も日差しも透明感あり。この大型連休中では貴重な一日。

最近FMもあまり聴かなくなっていますが、今朝はかける気になったのもこのお天気だからでしょう。

でもパーソナリティーの語りがピンとこず、しばらくして切りました。そういえば佐藤弘樹さんが召されて、丸2年。朝にFMを聴かなくなったのはそれ以来です。

代替のきかない仕事、またはその人ならではの仕事。今となってはその象徴的な人です、個人的な範疇では。

日曜朝にフジでやっている3者対談の番組、昨日はあえてみました。メンバーは、「松本人志」、「さだまさし」、「泉谷しげる」。

それぞれ特にファンというわけではありませんが、三者三様に事を成している人たち、どんな話が出るのか興味はある。

印象的だったのは、「松本人志」が『五輪の書』にふれて、「最後は調和っていつているんですね」。

東洋には陰と陽、中庸という概念がある。『五輪の書』にはまったく不案内ですが、書いてあることの底辺に流れているものは、何となくわかる気がする。

「松本人志」が今の「松本人志であることも、なんとなくわかるような気がしました。少し親近感をおぼえたのでした。

2021年5月6日(木) 晴れ

昨日はずっと雨、今朝は晴天。空気が澄み空は青々、街路樹も緑々。今日こそ散歩日和。季節は立夏。

ー 自ら語る、他者が物語るー

連休中の新聞を今朝まとめて読んだのですが、その中で目にとまった一つの広告、「私の履歴書」の講座開講の案内です。日経朝刊の最終ページに掲載されているコーナーの商品化。

6年前の創業塾でのこと。受講者のお一人が「自分史アドバイザーをとる予定です」。そんな資格まで登場しているのかと感心したのですが、高齢化社会、自分史の潜在的需要はありそうです。

自分で書くのは不得手、あるいは、支障がある場合、代わりに書くライターさんも増えているようです。実際、テスト的にライターさんに頼んで人の話を聞いたことがあります。

小さな商店をしていたお父さんの自分史を、お嬢さんがライターさんに依頼。何度かインタビューをしてテスト編が送られてきて、読んだお嬢さん、これは違う…、と感じたそう。

全体的に文章はよくまとまっているし、言葉がうまく流れているけど、自分の父親のことじゃないように感じたそうです。テスト編だけにして、それっきりになったとか。

ライターさんの職人氣質でしょう、それなりに〈読める〉ものに仕立てたかった、いや、自然にそうなったのかもしれませんが。人の人生に立ち入らず、でも、たしかに物語る。「プロ」とはいえ、難しいこと。

自分の物語は自分で綴るのが自分のためにもベスト。俯瞰すると、また見えてくるものがあるものです。でもそうできない人は身近な人が綴ると、その人のためにもまた良さそう。

ちなみにわたしは昨夜ふと、わたしがきょうだいの物語を綴ろうかと思い立ったのでした。だから今朝の広告に目がとまったのかもしれませんが。

2021年5月8日（土）

黄砂注意報が出たこの日、窓越しの夕陽があやしい色合い



2021年5月9日(日) 晴ただし黄砂

昨日も今日も晴れたけど、外へ出るのも控える黄砂予報。今日は風も強く、黄砂が天から地、地から天へと複雑に波打っているかと思うと、窓を開ける気もしない。今日は公園も人が少なそう。

－ 世代の差、教養の差 －

「常識」に世代があらわれます。例えば、仕事で山形に行った際に『土門拳記念館』に行ったと年下のライターさんに話したら、先方はキョトン。「土門拳、知りませんね…」。

逆に、ひと回り年上の人から「それは〈山本七平〉ですよ」と教えられた時はビックリしました。25年ほど前のことですが、「日本人とユダヤ人」の著者の名前が妙だと話したら、そう言われた。

若い頃に読んだ本の話をしていて、時々国籍がわからないに著者名があるとかないとか、そんな話をしていたと思います。内容はまったく覚えていませんが、本のタイトルと「イザヤ・ベンダサン」という著者名はインパクトがあります。

その方にとっては常識のことをこちらは知らない。先方がひとり言のように、「知らないのか…」とつぶやいたのが今も印象に残っています

先週初めて知った現代音楽の作曲家「ユン・イサン」。今日もNHK`FMの朝の番組で特集の続き。世界的に評価の高い人で、番組を案内する作曲家の解説も熱がこもっていました。

その存在も歴史もまったく初耳。なぜ知らずにきたのでしょうか、名前ぐらい知っていてもよさそうなのに。これは世代ではなく、教養の乏しさ、あるいは、〈住む世界〉の差でしょうね。

知ること新しく感じることを、考えることが出てくる。適度に異質な世界に接しなければと思い直した日曜朝でした。

2021年5月12日(水) 曇り

今年は梅雨入りが早いらしい。昨日も今日もすっきりしない空。昨日ふと大田神社の杜若を思い出した。もう見頃は済んだよう。昨年も今年も季節の変化に疎くなる「緊急事態宣言」。

－ 没後70年に陽の目をみたノート －

数日前の新聞に「西田幾多郎」のノートのことが載っていました。2015年秋、束になった直筆のノート類が見つかり、この3月にデジタルで公開されたそうです。

直筆のノート、これは興味があります。わたしもノートに手書きするアナログ派なので、次元は雲泥の差ですが、どんな風にかけていたのか、使っていたのか。

「西田幾多郎」の名前は知っていますが、本は読んだことはありません。記念館があることも知りませんでした。石川県西田幾多郎記念哲学館 <https://websites2.jmapps.ne.jp/nishidanote/>

この哲学館のサイトに公開。すぐにチェックしてみると、ノートを表紙画像が目をはきます。追ってゆっくり、じっくり閲覧の予定。

さて、見つかった時のノート類の状態は最悪。それを各分野の専門家たちが時間をかけて再現、デジタルアーカイブとしてようやく公開にこぎつけた。この難事業にはたくさんの研究者たちが協力したそうです。

おかげで貴重な知の遺産に接することができる。頭の中のみえないものが見えるようにしたノート。そのモノが没後70年ぶりに陽の目をみて、後進に光を与え、後世の人々個人個人に小さな物語を紡いでくれる、そんな気がします。

「堀田善衛」は富山。高志の国文学館 <https://www.koshibun.jp/>へ、一度行ってみなければと思いつけて、そのまま。石川県の哲学館と合わせて、行こう。必ず行くことにします、近い将来。なにかしら知のご利益があるはずですから。

2021年5月16日(日) 曇→雨

四国、中国地方も梅雨入り、例年より3週間はやい。近畿も時間の問題、今朝は曇り、時々雨が降り夜からは本降り、明日は大雨の予報。今日にも梅雨入り宣言？

ー よくぞ出てきた、がんばった! ー

『事実は小説より奇なり』という言葉があります。ニュースの伝える事件やドキュメンタリー番組に、そう感じるものが多い。稀にですが、身近な場面でもそう感じる場合があります。昨日がそうでした。

仕事柄、自身の想いを世に問うていこうとする人たちに会います。そのつと、社会には本当にいろいろな人がいて、想いがあって、生きていくんだなあと感じ、そう感じられる仕事ができよかったと思っています。

昨日仕事で初めて会った方。いやー、ほんとに、よくぞ出てきた、がんばった、そう声をあげたほど、子どもの頃からの過酷な運命に埋没せず、自分の力で、人のためになる専門職につくるまでに頑張った。

話を聞けば聞くほど、これからが本当の人生。助言の言葉にも熱が入り、力がこもりました。とにかくこちらの心がつよく動かされるほど、『事実は小説より奇なり』の、過去から現在までの歩み。

これからの未来は自分を生きる、生ききる。そう願うし、祈るし、後押しできるインフラもそれなりに整っているのが今の社会。その一端でわたしも何かしらアシストできるでしょう。

昨日このことから、まだまだどこかに同じような人がまだ出てこずにいるのだろうと想像するのでした。5月7日付の「今日のessais」で話したように、「自力を出すためにも他力をたよる」のも大事。

とにかく、よくぞ出てきた、がんばった、道はある程度定まっているから、これからの未来は究めるだけ。『終わり良ければ総て良し』。

2021年5月19日(水) 曇⇔雨

近畿も梅雨入りし、今朝もどんより、湿気も多い。もし梅雨明けが例年どおりなら土用の丑の頃の疲れはひどくなるはず。こまめに息抜きして、ストレスをためず、しっかり食べておくこと、おすすめ。

ー 読んで書く、書いて読む ー

思えば、診断士受験の勉強をしていた頃に自分なりの学習スタイルが出来上がりました。学習ポイントをフロー図にしたり、概念図にしたり、リスト化したり。

今ではそれらの記録もけっこうなボリュームをになっており、リスト化のフォルダーはずいぶん厚くなりました。読書メモもこの中にいれていま

昨夕すこし空き時間ができたの、昨年末から今年にあけて図書館で借りた本のメモを見直しました。ご参考までいくつかご紹介しましょう。

『子供を自然の世界に紹介する時、知ることは、感じることの半分も重要ではない』(レイチェル・カーソン)

『失敗しても成功するまで続ける、人間関係が悪化しても時間がすぎれば改善すると想像する、現状がうまくいかなくても未来を待つ、この〈待つ〉という行為の効用が大』(関野吉春)

『気は宇宙に偏在する眼には見えない活力、「天の活力」。風水、陰陽、五行、本来は別種のこの三つの世界観を融合して中国古代人の世界観の根本に関わった、それが気』(諏訪春雄)

本を読んでピンときたことを手で書き留める。このプロセスがいい。時間がたっても書いたことをカラダがおぼえていて、“たしか左のページのあのあたりに・・・”となるのです。手と脳は一番つながっているといいま

それに、自分では気づかないうちに精神の糧になっている、それが読書。「今日のessais」でも話しましたが、子供の頃の読書はすごく大事だし、大人になってもそれはかわりませんね。

2021年5月24日(月) 晴→曇→雨

昨日おとといは貴重な晴れ間だった。今朝一番はまだ青空もみえたが、雲が多くなってきた。明後日はスーパームーンで皆既月食とか。今のところは何とか晴れて、見られる予報。

ー ダヴィンチの説と通じ合う東洋 ー

今日のessaisで少しふれたダヴィンチの説、あらためてちゃんにご紹介すると、は次のようなものです。

「魂の伝えたいことは人体を鑑賞すればわかる。骨々の関節は腱に、腱は筋に、筋は神経に、神経は共通感覚に服従する。それで共通感覚こそ魂の座席である」。

これは『人体の冒険者たち—解剖図に描ききれない からだの話—』（ギャヴィン・フランシス）の中に書いてありました。この本は新聞の書評をじて、これは買いだ!と直感したものの。

読書メモの最後に、わざわざ次のように書いています。「2018.12.8 (火) 12:40記入 実によい本だった。知の周縁を超えて宇宙的な本であった」。ちなみに『読書をする』ページには詳しく感想記事あり。

さてダヴィンチのこの説で思い出しました。東洋では人間の品性は足首に出る、足首をみればその人の品性がわかるという。ある本でこのことを知った後、韓国の歴史ドラマにまさにそういうシーンがあったので

東洋医学では「肺がわるいと白い顔、腎臓がわるいと黒い顔、肝臓がわるいと青い顔、心臓がわるいと赤い顔」といい、人体に現れるあらゆる面を観察すればその人の精神と肉体の状況がわかると考えている。

東西をとわず、人間そのものは変わらないので、ダヴィンチの説も伝統的な東洋の考えも通じ合っている。

10年前に気づいたことの一つ、知の領域はどれほど互いにかけて離れていても、どこかでつながっている。よく考えてみれば当たり前のことですが、何かしら思考がグローバルになった気がしたものです。

おかげで、目についたものは異分野であっても、ちょっと調べてみる。そこでまた、〈つながっている〉と感じる。頭の中のネットワークが広がる感

こういうことは、何も無い時にはなんてことないものですが、イレギュラーな時や場面に効力を発揮するものです。その第一は、〈動じない〉ということではないでしょうか。

2021年5月27日(木) 雨

再び雨、九州ではかなりの雨量になったよう。これから四国、近畿へ前線が移り、午後にピークの予報。昨夜は雲が多く、のスーパームーンで皆既月食、大阪市内では見られなかった。

— 手紙のすすめ、読み書きの習慣 —

「緊急事態宣言」の延長は確実のようです。個人的に延長は想定外。期間はおそらく6月20日まで、もし規制が緩和されての延長なら、効果のほどはいかに。

効果といえば、今日のessaisで話した手紙にからめて、ビジネスの心理学にふれた本の中に仕事でも時々引用している箇所があります。次のとおりです。

「商業通信文において、受取人に心理的影響を与えるのは、文書の文言だけでなく、その外的要素—手紙の外観と形式、紙質、さらに封筒と宛名の書き方をも含む」

人に言われなくも何となくわかっていることだろうと思いますが、しっかり言葉にされると、“そう、そう”とあらためて納得するものです。

いつか、DMだけど個人通信のように出す手法がありました。どこも同じようにするようになり、新鮮味がうすれ、効果も下がったのでしょう、最近はかなり少なくなったように見受けられますが、どうでしょう。

ちなみに、今日のessaisdで話した手紙以降、これまでに出した相手は10人。メディアや読書で知った、まったく個人的関係のない人たちです。2年前の暮れ、ふと、返信の有無を確認してみたのです。

すると、6名の人から返信があり、その内3名の方とは交流が続き、うち一人の方とは実際に会ったこともある。おかげで、未知の領域の様々な情報にふれ、自分の知の領域が少し広がったのでした。

伝えたい何かつよいものがあつた時、それを実際に伝えてみる。これはいつも勧めています。メールやSNSもわるくありませんが、個人的には手書きを選びます。

手書きだと、おのずと封筒や便箋にも気をつかい、季節の絵葉書を選ぶことになります。自分のスタンスを表し、相手の趣向も考慮して、合うものを探すはず。これもまた手紙を出すプロセスの小さなたのしみ。

とはいえ、やはりしっかり伝える「文言」が大事なことをわすれてはいけません。想いを言葉にする、これがなかなか難しい。基本的には「読み書き」習慣がものをいう、わかっていることですが。